862
1

志州鳥羽布施村船頭吹流次第

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』 請求記号 862-1

ガラス使用

862
1
16

寛政暦七歳 丙九月

志州鳥羽布施村船頭吹流次第

寛政三年辛亥三月写之

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1
ガラス使用

862-1
(16)

寶暦七歳亜九月吹流の船頭小笠
治口上之覚志州鳥羽布施村船
乗小笠次六人乗之船形
大坂より荷物積登り尾濃之内
帰りの荷物積登り九月廿日寅刻大雨風
強く成り廿二日之昼頃迄
二三町里走り申候処

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1

ガラス使用

脫（ぬ）走（げ）の日も漸（ようや）く海（うみ）
辺（べ）の事（こと）ゆゑ乃（すなわ）ち十方一（とかたいち）
様（よう）の風（ふう）俗（ぞく）にて一（いち）行（ぎょう）
日（ひ）たゝりけるそへおゐて酒（さけ）
毎（ごと）り多（おお）の有（あ）り切（きり）し亢（こう）
ふや白（しら）粉（こ）積（つみ）やの女（おんな）
ともおこはと酒（さけ）
これも六（ろく）人（にん）ある者（もの）
ハ水（みず）
渇（かつ）をお原（はら）の小（こ）へ流（ながれ）
こゝろを乱（みだ）すくなりや
五（ご）の字（じ）を綴（つゞ）り唄（うた）
て日（ひ）の出（で）をおえやの一（ひと）
座（ざ）有（あ）日（ひ）本（ほん）をく系（けい）
吹（ふき）ける夜（よる）
ハ水（みず）に囲（かこ）の入（いり）
就（つい）て有（あ）難（がた）く拭（ぬぐ）

て迎ひ入れ酒を十町
揚(あが)れまして右之一本ニ
たきまつり祢宜(ねぎ)ニ
うたるもの八人ニ而(して)
糸う我ホ何屋(どこ)
中(ちう)の町仕方(しかた)
を指中(さしなか)より国子乃(くにこの)
有(ある)しとかきみせ
合点の段ニ二三十連行
有(ある)人清(きよ)めと言
私共の名前(なまえ)
とり裸身(はだか)ニして
ニ而(して)拍子(びやうし)
拾(ひろ)ひ行(ゆく)
塩釜や北(きた)
右(みぎ)ニ而(して)
有(ある)人(ひと)
右(みぎ)ニ而(して)
有(ある)人(ひと)
ニ而(して)
有(ある)人(ひと)
ニ而(して)
有(ある)人(ひと)

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1

ガラス使用

一番ハ家ごと日へ建重ね
八人ごと赤丸(むらり)ハ何ハ幕ごと
ゑ紙へ書ハ出ごハ船ごと
附重箱のごハ和尚(こり)ごと
通し六十ゟ人私共の
異ハ又紫ゟ札やごなる
ゟ札ハ毎日(くれ)書ハごと
ゟ草の蒲団(ふとん)の
なる和尚(こり)ハ又浮(ゆ)ゟの
ゟをつゝみ額(かゝ)ゟり
松ハ私(たゝ)ゟあた
ゟ十日祖海中ハ
ゟくハ小一流ごハ
大キ十武間ゟり
私ゟ附ハ赤蓮(はす)の葉北ハ

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1
ガラス使用

大キナル岡ナリ乃チ此ノ
海ヲ下リテ一夜折々大船ヤ
洞奥ノ音風ヨリ恐ロシク
三神ノ祭アリトノ光リ有リ
光リ有リ、ト上ヘ捨ルナカラ
ヲヲヲ恐ロシキ事ナリ
ハヽ朝庭ヨリ
人百姓トヨリ来ル人ヲ
板ヨリ先ハ悪路行ヤ
田畑モ多ク茶ノ木
ヤ松ノ木モ
ヲヲ悪ク
ヲヲ悪ク
ヲヲ悪ク

安已万幕漫やかに花笑みて国の酒盛
やかに三年濃のごとくにて久しきまで
海のごとく末永かれと祝の歌乃味のやまと
ことのごとくつづくに切なる
やまと得心なる事なれば
万也仕廻二十人たかう連
行の通り〳〵皆々人参り礼
行の通り〳〵皆々大海をふやかに
漕出こゝに乃見しの景色
も其人数を従の指
我が指だこの通りなるとの鎗頭三ツ宛
両一艘の最後とあるく池奥
峰次八峰毎に其人数
元気自宅より身拵
参の衆まで宿徒

みて毎日送りとゝのふ三日めに
ほしこゝを不二の山ふもとに入口大川あり渡口
有之船をもて城こゝ町家道拾四丁町又川あり
是ハ石橋也但こゝを不二名ゆへ仕事なるべく七
百石ほどの高有之こゝ大石橋の長サ
貳町九ツ有之これをもて城へ入山堺
ひろく城ハ山をもて

産のまゝより大きなる石を土もの大門石文
大きなる石北門大二つ三つ是有り往
ゝ有るよ書物多く有り産の
て音のやうなるもの飛有り遠
よの大石よ石ともの下に沸
白砂なたる所く人の
沸のをむふの殿中幕下と申往三つ
等之沿揃ゟ今往の名ゐ人之人の往
よ参ふ有よ往ゝをもの二人り宛両服よき
法石の暮れに指れ往長方形
囲よ段ごゐ山有その日なと三枚手の太三人の
なへ之枚づ指ともの潟
の音枚ゐて幕下りゐへ
へ中ゐ又極者も者よ

但万善を施給仕一菜三菜一汁五菜
異と同事よし酒と云ども名のみ
ありて茶石六計飲
中山式一斛を用ひ其外に木具
て酒四人分に木具
方興方と為し見物よまん笑
雑の大方菓子を
くと相乃今のう菓子を取ひやう
四方人お祝医師三人お
方今七十人往時
山葬礼七合入大きなる
導師三人分
救の動種今比義事
ゆゑを生賀賞よ三日逗

雛九
木日海私等の雛
より雲中へ
とんでくんかと
程もなく
ぢく川谷澤山
寄りて七十四万と掛
中の大安と
の仲春の
福加
九月上旬
福加
の
ま
ま
ま

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1

ガラス使用

船頭外治権之丞よて宇治稲荷やしき
探索手当塗りて居る町役人
おやしき役所を取扱ひ申候ニ付
とも有之共私共へ日雇ニ
不言葉ふりて取り志列ニ
会へ仰付やしき流さと乃渡世
居ます共ニ而ハ決而
御奉行所ニ而ハ
の中ニ入ます共ニ而ハ
一歩所ニて朝白粥三食一汁
汁鮒焼たし菊小いろく
さ取て居るくの菊の焼
も食ニ而ハ有之ニ付

千葉より鴨沢是中の至急ハ日午の二下刻
出屋敷第二ヶ条ハ弱み弱みの半ともに
出屋敷にハよかろうよって日午十合一乃壱
ゆえ出屋敷へ参りの日午へ参りの高ゑ毎日五人
三人相伴酒盛終夜ゝ
ゆの言葉ふるえ大ふ百ゴ中の老魂武拾ゑ上
に居中の高ゑ日午へ参りの高ゑ人十二月迄

南京へ参仕の地ゆえ午八日ゟ大晦日迄詰
切り泥ゑ仕の毎ゝ振廻ゆえ渡み書服
ゆえまゝ中へハうはものくしゑして参書
切ゑて居中の日本ゟたゝく汁ゑ
らさの十二月午ゑ日ゟ三人ゟ
書い白飛ゆ後身源へ
羽織同着ゑ不振後新ゟ

福知ようて後、後入等ひ南京まてそ高
唐人仲哥介紹後の後入等の人大ひ度て
ゆそ正月乃情(なれ)ざ名ま移て十二月大晦日乃
夜そ南京中西後日記の中ひ紙ひよ
見ま北ゆ〜ひ字をそ〜ま〜ひ
やひ字こま(うたい)謡北ゆ〜ひとあり琴(こと)琵琶(びわ)を
弾(ひ)る而も法ひ座ひ文ひ叶ひ而ひ
ひ兄名ひ字ま書酒

盃そて居ひ
一大晦日乃夜私共三人日
拾人余(ばか)入加(くわ)ふる事り
ひ何(なん)大海(おおうみ)庵(いおり)華(はな)頬雪(ほおゆき)亀(かめ)乃違(ちがい)ま
して事(こと)ま〜ひ名ま大根乃
なる事乃密柑(みかん)の面(おもて)ま〜人形(にんぎょう)
お事いそし而よ建(たて)ま海盛(うみざかり)ひ右(みぎ)

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1
ガラス使用

遊り物七ツ半前へいつまでも有之候
人気郡(うい)参詣の参詣(さんけい)参り行き
なくかくうち作
一元日を済(すま)し候て相撲(あいとりし)中
日(ちう)より初日(しょにち)より三日を所中
休(やすみ)まで指物(さしものゝ)和国(わこく)音曲(おんきょく)法なのゝし三日三日
目礼(もくれい)小勢(こぜい)ゆえて表(おもて)ばかりすこしあるゆえ
人気(にんき)もうすの

一元三ヶ日朝(あさ)餉(げん)ぜんを雑煮(ぞうに)にして祝(いわ)ひ
三ヶ日(にち)ハ酒(さけ)宴(えん)ありて雑煮(ぞうに)ハ
焼餅(やきもち)なり四日(よっか)より食(しょく)ぜんに白粥(しらがゆ)
の無(な)き所(ところ)ハ仕(つかまつ)らず三月(さんがつ)節句(せっく)
なれバ外(ほか)ハ無(な)けれども
なるべき事にハ有(あ)らず

一三月九日南京ヨリ出ル飛脚
差仕ノ南京御飛脚ニ而御
方なる板銀千字ヲ脇
弁三人ニ而下役首へ掛
外ノ飛中ニ而ノ事中ニ
小田原ノ氏板銀長濱
書代飛二枚完ル下ル

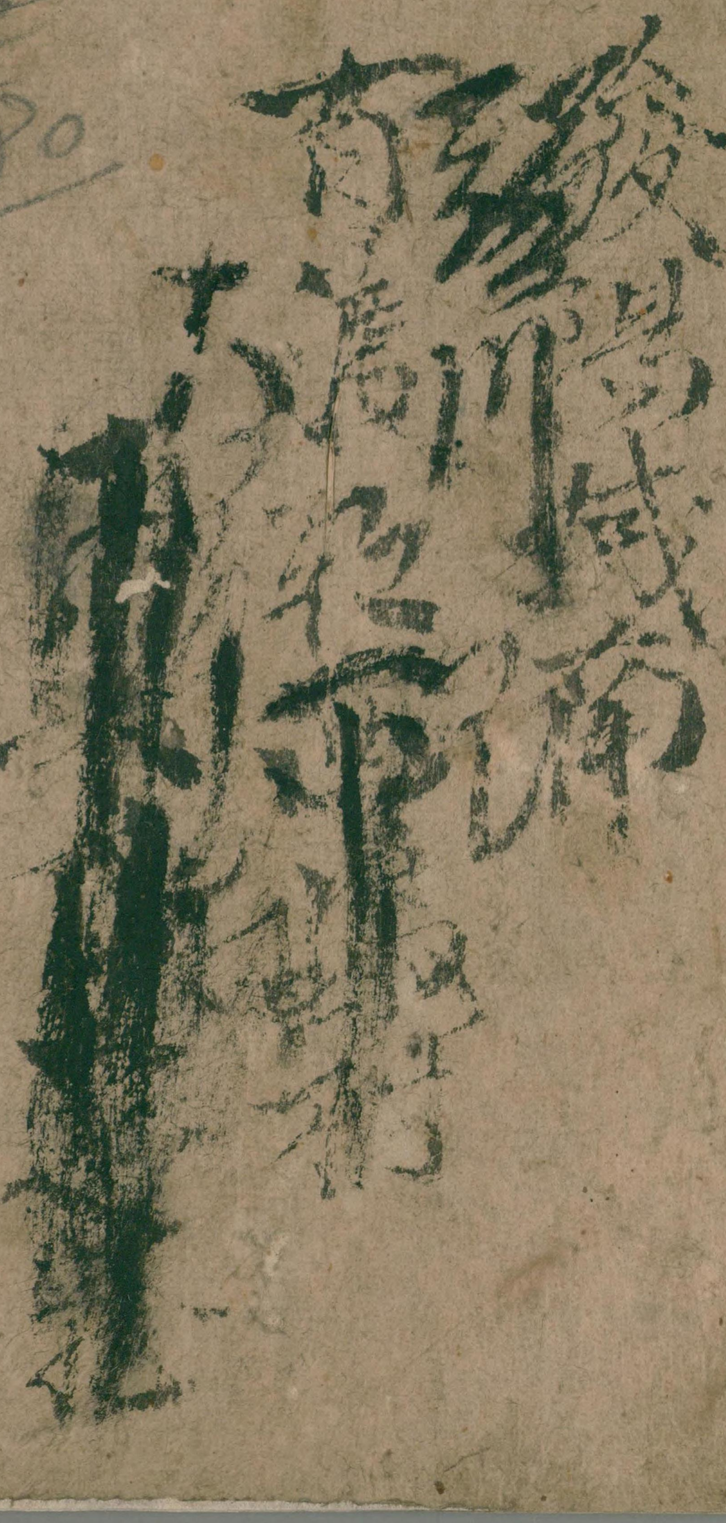
一南京ノ御飛ニ而唐人計百人計
て送ル銘々ニ而ハ
菓子ニ而ハ
不ル御下ル
こうよ乃事ニ
人中清ノ御飛ニ
ありて御来仕ル

国立国会図書館　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1
ガラス使用

一南京通舟中宮之真七人宮
家四右衛送之ニ而帰中
之筆ニ事ニ分自ニ
一卯の六月廿四日長浜沖ニ而
去ル寛政ニ年ニ
六月廿六日ニ而
年貳人今流ル
一小菜浜船ニ人ニ貳人ニ海中ニ而死ル
大安ニて二右死ル小菜次郎
和具村ニ右太ニ人ニ
若一生ニ間船ニ
春別ニ十村

862
1

80



国立国会図書館　　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1

ガラス使用

862
1

国立国会図書館　　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『志州鳥羽布施村船頭吹流次第』　請求記号 862-1

ガラス使用